

(二) 復元設計・制作

復元設計にあたっては、製作当初の姿の再現を目標とし、上述の調査結果を踏まえて各項目について検討した。調査・設計は令和四年四月から十二月にかけて実施され、完成品の製織は翌年一月に実施された。以下、設計のあらましを述べる。なお、文末の参考表に一部の項目の詳細をまとめた。

染色においては、現存する同文の織紐の色に複数の組み合わせが確認されることを踏まえつつ、本来の色調と推測される緑系の色味で検討した。当館は、先行して復元を進めた表紙裂にそぐうよう、修美から実際の天然染色サンプルによって色調を提案いただきながら選定をおこなった。最終的に選択したのは、ほのかに黄味がかつた淡緑色である。原本の織紐と表紙裂が同時期の制作かは不明だが、復元表紙裂の朱色に映え、かつ品のある色味となった。

意匠図は原本画像から起こし、原本の糸や図様の歪みを考慮して補正を行い、製紋した。組織機は紋紙を使用するジャカードシステムを搭載し、製織をおこなった【図42】。

(三) 糸番手の変更

本項では、設計の過程で修正を加えた糸番手について特記しておく。

当初、原本の調査時点で導き出した糸番手によって試織したところ、原本よりも幅広く厚みのあるものとなった。原本が細く薄いのは、糸の太さが均一でなく、紐の状態でも経年と使用によってしな

表5 原本紐の素材

項目	材質	仕様		
		太さ	合本数	撚り
経糸	絹	31-180 ^D	1~4本	甘撚り
緯糸	絹	250 ^D + ⁻	合糸	甘撚り

やかになっているためとみられる。

原本の太さと厚さに近づけなければ別子の孔に通せないため、糸番手を細くし、合わせ本数を一本、緯糸を一本として織り、併せて箆も置き換えることとした。同時に、糸が細くなったことで切れやすくなったため、牽長（経糸を張る長さ）を約五〇センチメートル延長することで緯糸を通す経糸の開きを大きくし、作業性を高めた。このような修正を重ね、織紐が完成した。これまで中国卷子の織紐には既製品で相応のものがないという問題があったが、本事業はこれに対して、中国卷子紐の研究と安定的な供給に資する意義も有するものになったといえよう。⁽⁵⁾

おわりに

このたびの修理によって、本作は美しく安定した状態となった。しかし当然ながら修理とは、制作当初の状態に復するものではなく、既存の損傷を拡大しないよう落ち着かせる処置である。古書画にとって公開と保存は相反する行為であり、改めて本作を広く鑑賞いただきたい一方で、今後はこれまで以上に慎重な取り扱いが必要だと感じている。展示環境や期間はもとより、われわれ学芸員による開閉の動作一つとっても、技術を日々磨き、作品に毛羽立ちが発生するなどの負担をかけない努力をせねばならない。

一方、表紙裂と紐は新規制作だが、復元には作品修理と同じく、技術者のわざと叡智が不可欠であった。それは彼らにおける長年の経験や言語化しえない感覚に基づいており、容易に再現できるものではない。⁽⁵⁾ このたびの復元裂と紐は、原本の解釈を示すと同時に、未来へ継承すべき製織技術の現在地を伝えるものでもある。改めて

これからも、表装を含めて本作全体の価値を守り伝えていきたい。

謝辞

本稿をなすにあたり、株式会社修美の大野恭子様、鳥居株式会社
の谷口正様、黒川清夏様にご助言をいただきました。ここに記して
心より感謝の意を表します。

また、本稿はあくまで修理と復元の概要を報告したに過ぎません。
竣工までに多くの方々に関わりと工程を経ています。ここで深く感
謝申し上げます。

註

1 本作とその跋文に関して、近年の重要な成果として衣若芬による次の詳
細な研究がある。

衣若芬『「出塞」或「帰漢」——王昭君與蔡文姬図象的重疊與交錯』『婦研
縦横』七四期、二〇〇五年。

衣若芬「宮素然『明妃出塞図』及其題詩——視覚文化角度的推想」張高評
主編『中国近世文学国際学術研討会論文集』之二「金元明文学之整合研究」
台北・新文豊出版公司、二〇〇七年。

いずれも『遊目騁懷——文学與美術的互文與再生』（台北・里仁書局、二〇
一一年）に再録。

2 本作の題跋と著者、伝来等については弓野隆之「明妃出塞図 宮素然筆」
『関西九館所蔵 中国書画録Ⅳ』（関西中国書画コレクション研究会）が
刊行予定であり、そちらを参照されたい。

3 落花流水八宝文の織紐に関しては余佩瑾主編『品牌的故事——乾隆皇帝的
文物収蔵與包裝芸術』（台北・故宮博物院、二〇一七年十二月）に類例が
掲載される。

なお、東京国立博物館と岡墨光堂は二〇一九年度から二カ年で実施した
李公麟「五馬図卷」（東京国立博物館蔵）の修理の際、米芾「行書三帖卷」

（東京国立博物館蔵）を参照して同文の織紐の復元を実施している。次の
論文を参照。

沼沢ゆかり「「五馬図卷」の表装裂について」『修理調査報告「五馬図卷」』
東京国立博物館、二〇二二年十月。

4 岡岩太郎「中国卷子紐の復元事業」同上。

前掲註3岡岩太郎「中国卷子紐の復元事業」では、本事業とは異なるア
プローチで実施した復元が報告される。こうした先行事例とともに本事
業の成果が、中国卷子紐の研究に寄与することを期待したい。

5 文化財に用いる表装裂を制作する技術は継承が危ぶまれている。そうし
た状況をうけ、令和五年六月、技術者団体「文化財修理表装裂継承協会」
が発足。文化財に用いる表装裂を安定的に供給するため、関連事業者と
の連携協力や、製織および関連技術者の育成が目指される。

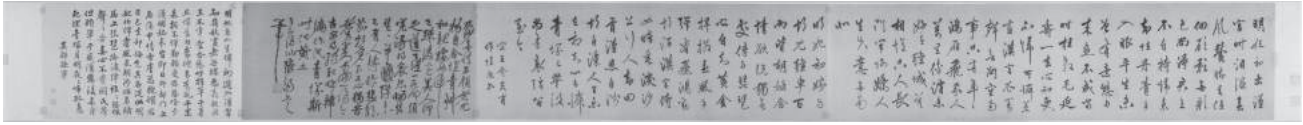


第四紙

第三紙

第二紙

第一紙



跋第四紙 (孫寧)

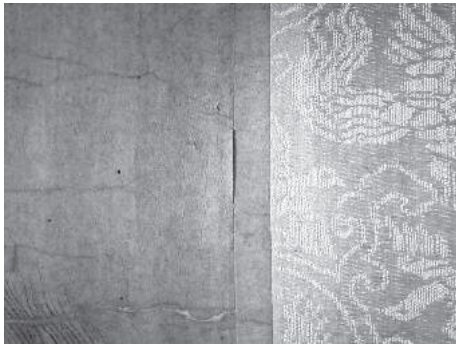
跋第三紙 (張錫)

跋第二紙 (陸勉)

跋第一紙 (陸勉)

【図1】明妃出塞図 金時代・12-13世紀 大阪市立美術館蔵

本紙と跋の縮尺を変えて掲載した。



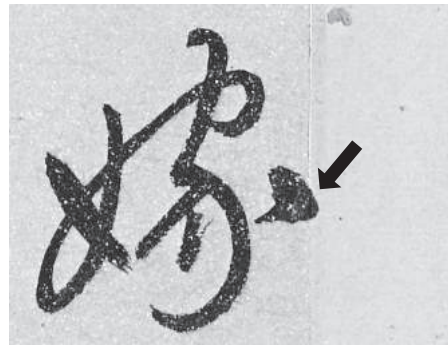
【図3】第一紙糊浮き (斜光撮影・修理前)



【図2】第二紙折れ (斜光撮影・修理前)



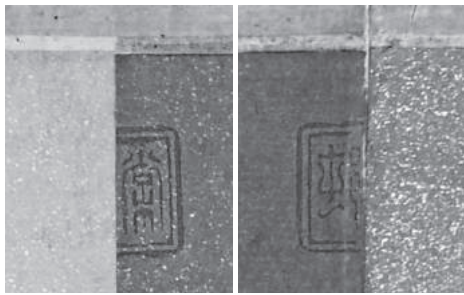
【図6】第二紙欠失・補筆 (修理前)



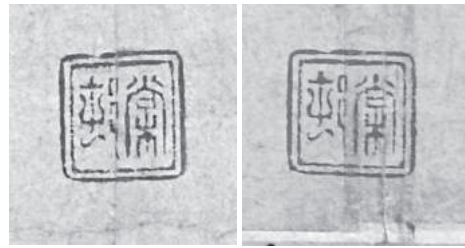
【図4】跋第一・二紙間補筆 (修理前)



【図5】第二紙折れ伏せ (透過光撮影・修理前)



【図15】 跋第三紙印半欠 (修理前) 【図14】 跋第三紙印半欠 (修理前)



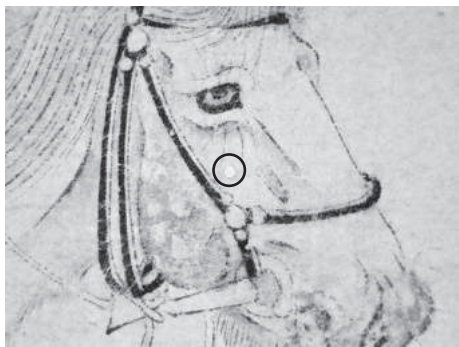
【図8】 第四紙印切り詰め (修理前) 【図7】 第二紙印切り詰め (修理前)



【図10】 第四紙毛羽立ち (修理前)



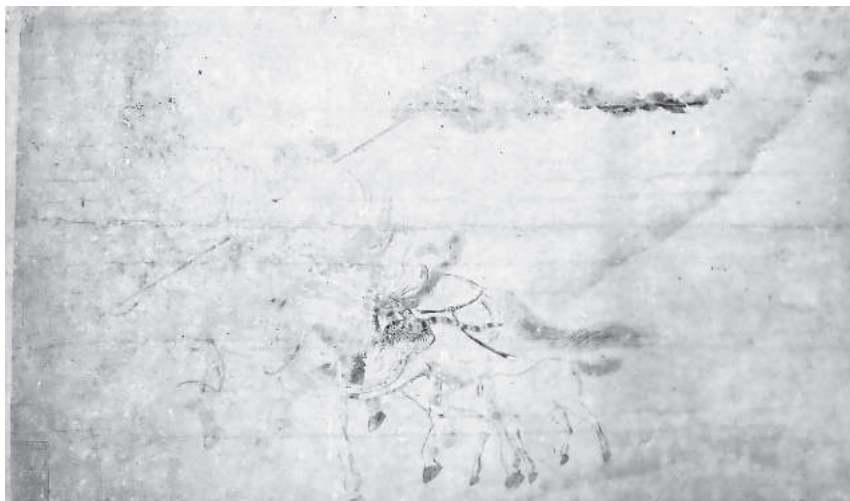
【図9】 第二・三紙毛羽立ち (修理前)



【図13】 第四紙虫損 (修理前)



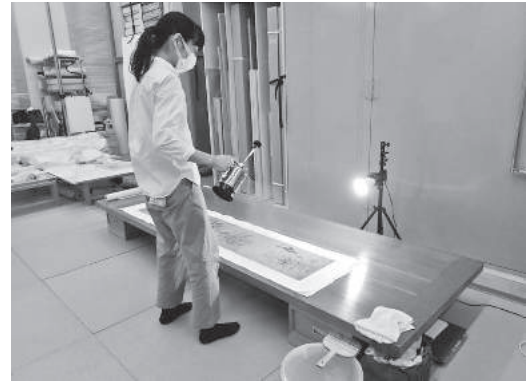
【図12】 第一紙補筆 (修理前)



【図11】 第一紙肌裏紙・補修紙除去後 (裏面・修理中)



【図17】剥落止め



【図16】クリーニング



【図19】補紙



【図18】肌裏紙除去



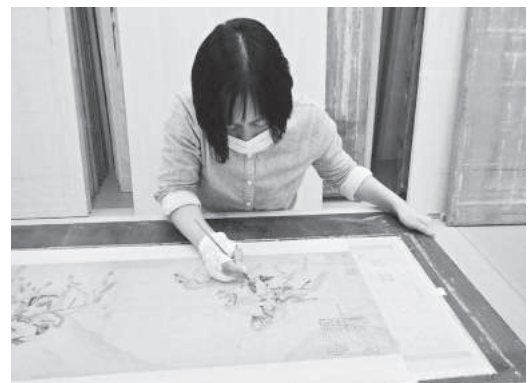
【図21】折れ伏せ



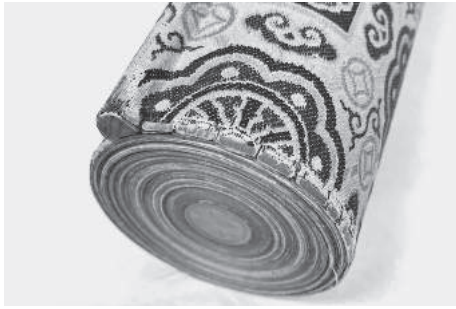
【図20】肌裏打ち



【図23】仕上げ



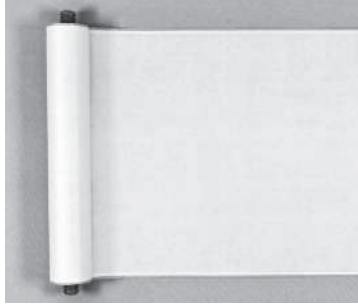
【図22】補彩



【図26】駿骨図軸頭



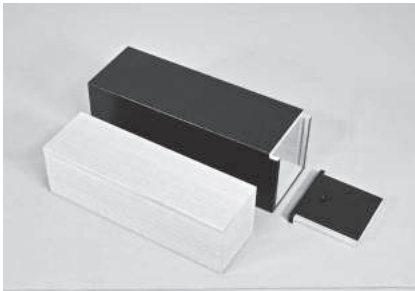
【図25】明妃出塞図軸頭（元使い・修理後）



【図27】尾紙（修理後）



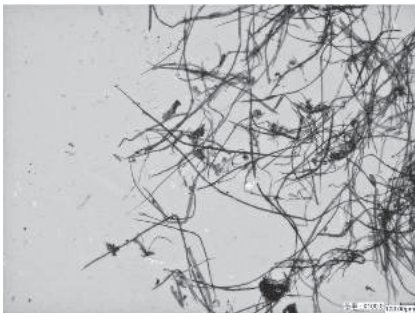
【図24】別子・旧紐



【図29】新調保存箱



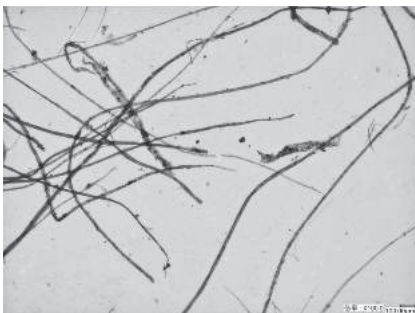
【図28】旧保存箱



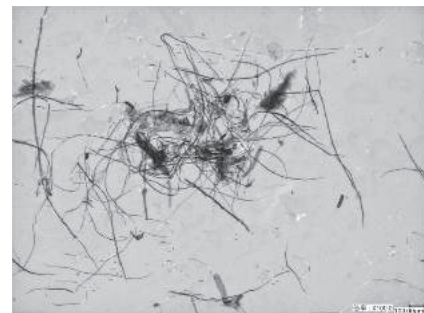
【図31】跋第一紙料紙拡大



【図30】第一紙料紙拡大



【図33】二回目肌裏料紙拡大



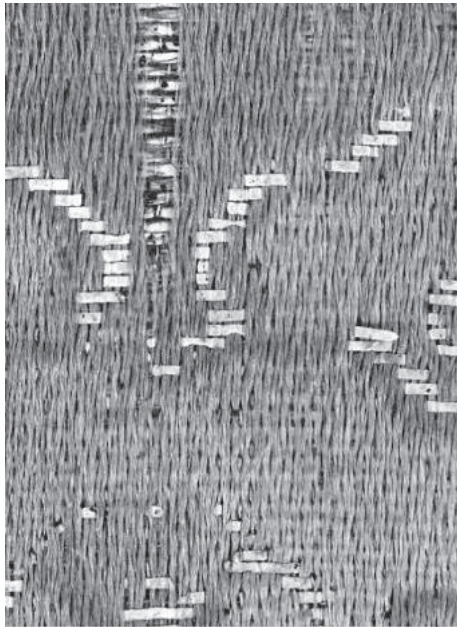
【図32】肌裏料紙拡大



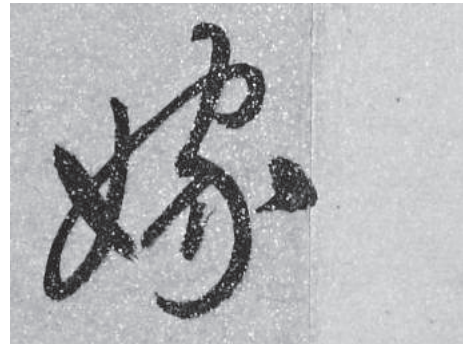
【図35】第一紙継ぎ（斜光撮影・修理後）



【図34】第二紙（斜光撮影・修理後）



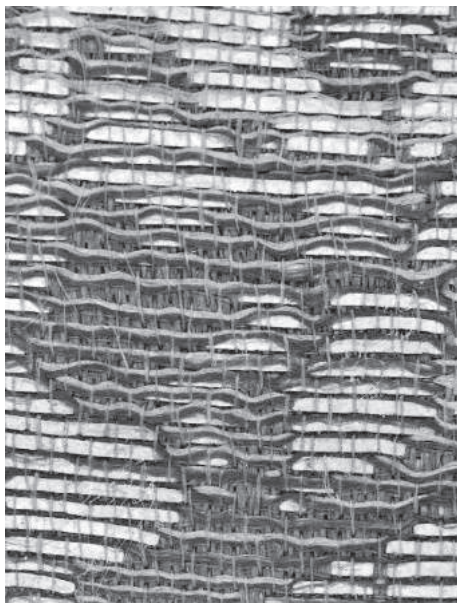
【図39】表紙裂表面マクロ写真



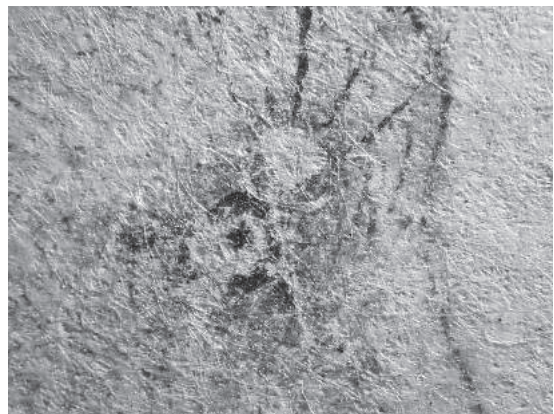
【図36】跋第一・二紙間（修理後）



【図37】第二・三紙（修理後）



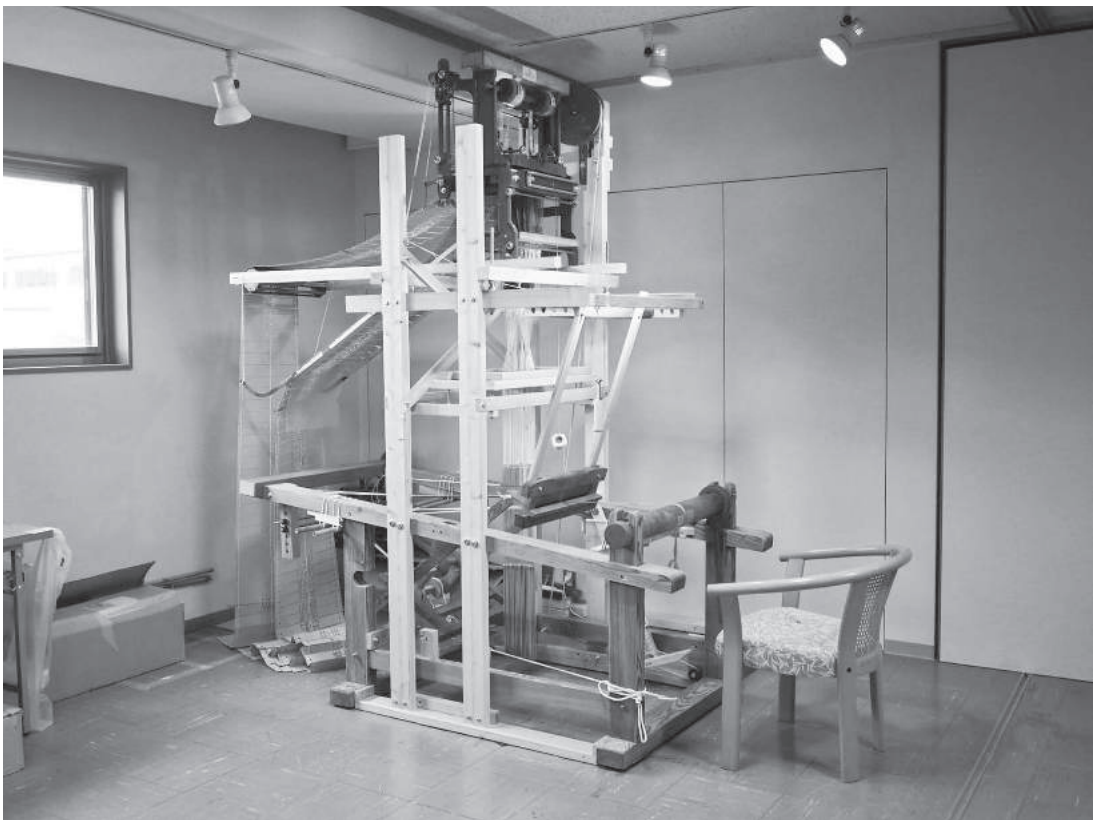
【図40】表紙裂裏面マクロ写真



【図38】第四紙（修理後）



【図41】復元表紙裂を織る様子（報告者撮影）



【図42】織紐機（報告者撮影）

参考1 復元表装裂の原材料

区分	糸種	番手	撚り	本数	デニール
経糸	絹	21 ^中 /6	甘撚り	1本	120 ^D
	絹	21 ^中 /2	諸撚り	2本合わせ	84 ^D
	絹	28 ^中 /2	諸撚り	2本合わせ	112 ^D
	絹	31 ^中 /2	諸撚り	1本	62 ^D
絡経	絹	21 ^中 /2	諸撚り	1本	42 ^D
地緯	絹	21 ^中 /4	片撚り	1本	84 ^D
絵緯 (1,3,4,5)	絹	21 ^中 /4	片撚り		252 ^D
絵緯(2)	絹	21 ^中 /4	片撚り	2本合わせ	168 ^D
紋緯	平銀糸	55切/65切/75切 (乱引き)		1本	-

参考3 復元紐の原材料

糸	糸種	番手	撚り	色	デニール
経糸	絹	28 ^中 /2	諸撚り	黄緑	56 ^D
	絹	28 ^中 /2	諸撚り	象牙色	56 ^D
緯糸	絹	21 ^中 /9	片撚り	黄緑	189 ^D
	絹	21 ^中 /9	片撚り	象牙色	189 ^D

参考2 復元表装裂の染色

区分	緯糸番号	色	染料	媒染剤
経糸	—	朱	インド茜 槐樹 コチニール	アルミ (ミョウバン)
地緯	—	濃茶	ウコン インド茜 山桃 柿渋 コチニール	銅
絵緯	1	象牙色	山桃 柿渋 インド茜 コチニール	アルミ (ミョウバン)
	2	焦茶	ログウッド ウコン 柿渋 インド茜 コチニール 槐樹	銅
	3	青	インド藍	銅
	4	青緑	藍 ウコン 梔子	銅 チタン
	5	黄	ウコン 槐樹 黄金花 山桃 インド茜 コチニール	アルミ (ミョウバン)

参考4 復元紐の染色(経糸・緯糸共通)

色	染料	媒染剤
黄緑	藍 ウコン	銅
象牙色	古木茶	—